

山形測候所



藏王の樹氷(地藏岳)

頂上に元の藏王山測候所の建物が見えている。
(撮影 多田智, 30, 3, 17, 11, 1/100ペロナ2号)

品位があり、供出期には遠く関東関西方面まで移出され、季節ごとの果物は、さくらんぼ、西瓜、桃、ぶどう、洋梨、その他多種豊富である。

山形測候所は、内陸の代表点を占め、その観測の歴史も古く明治22年来となっている。現在、職員は21名で、県内の気象知識の啓蒙につとめており、県には又、協力機関として、気象災害対策本部が設置されている。凶冷対策は東北地方の宿命的課題であり一般の気象への関心も高いので、いろいろと問題も多い。現在継続している全県の積雪総合調査は本年は5カ年計画の最終年に当り雪国地方の雪の問題と取組んで、スノーサーベーターについて、また雪の気候学、積雪学に貢献することを念願としている。

その他、八久和電源地帯のスノーサーベーターや山形県治山治水総合調査等で山地降水量の調査に活躍を続けている。

構内には、テニス、とバドミントンコートが整備されていて、バンのすべる音と算盤や計算機の音だけ聞えていた室内には時間外のバドミントンに興ずる職員の笑声やテニスのボールの音が聞えてくる。近く宮城、福島、山形の3県部内テニス大会が予定されているが楽しい一日となることであろう。

山形の地方だよりは控え目に努めながらついでお国自慢になってしまった。こういういい土地の紹介ともなれば致し方なしと自分にいきかせ又皆様のお許しを願う次第である。
(門脇四郎)

山形県は全面積の8割が山で、その名のように山国である。東の奥羽山脈と西の出羽丘陵及び、越後山脈との間に内陸の盆地があり、日本海の穀倉庄内平野と分離されている。

山形市は、この内陸盆地の一つ村山盆地の南東端にある。藏王の樹氷、月山の夏山スキー、至るところに湧出する温泉観光地、出羽三山等が知られるようになって、来県する人も多く、又最近、山びこ学校などでも有名になった。東京からは8時間の近さで決して文化もおおれてはいない。

フェン現象による最高気温、40.8度(昭和8年7月)という全国一の記録は有名であるが、一度山形市を訪れる人は、戦災にもあわず、静かな昔のおもかげの多い市街と、緑の木々と、四通八通に市街を流れる流水の清いことに情緒を感じることであろう。気温の較差は大きい方だが冬季には積雪も大して多くなく、風も年を通じて弱く気候的には恵まれている。農業県である主産物の米、特に庄内米の名声は高いが、村山米もこれに劣らぬ